

ぼくのは

広島県立尾道特別支援学校

小学部第1学年 小笠原 幸輝



	た	ひ	し	ら	は	は
	た	た	た	た	た	た
	た	た	た	た	た	た
	た	た	た	た	た	た
	た	た	た	た	た	た
	た	た	た	た	た	た
	た	た	た	た	た	た

尾道特別支援学校
 読書部 一年一組



				か	あ	く
				は	た	り
				え	ら	く
				た	し	り
				こ	い	り
				は	あ	り

尾道特別支援学校
 読書障害部門 小学部 一年一組

＜指導者の言葉＞

日常的に生活の中で体験したことを言葉にすることで言語力を高めると同時に、児童自ら表現することを大切にし、表現したいことをイラストや手話・指文字・書き言葉等で確認しながら指導をしています。

本作品は、「日常生活の指導」と「国語科」の授業の中で作られた作品です。

「日常生活の指導」では、学校での活動の内容だけではなく、家庭で体験したことを話題にし、言語化していくことも大事な活動として行っています。その中で表現されたことを、絵日記としてまとめました。

児童にとって初めての体験である「歯が抜けそう」という事態に、学校では、毎日のように歯を見せてきて「ぐらぐら」と自分で伝えてきていました。歯が抜けたことを児童自らホワイトボードに絵を描いて表現し、抜けた場所を指さしながら、「ピーンして、ポーン」「いたい」「びっくりした」と言って伝えてきたため、国語の時間に絵日記として表現することにしました。後日、新しい歯が生えてきたことにも本人が気づき、指さしながら伝えてくれたため、この新しい歯についての表現は、何がいいか、選択肢を本児に提示すると、「あたらしい」という言葉を選んだので、「あたらしい」と表現しました。

本児は、入学してから手話や指文字を覚え、人工内耳からの音情報とひらがな・言葉の一致を一つ一つ学びながら習得してきている児童です。その中でもオノマトペの表現が好きなので、いろいろな場面で取り上げて指導してきました。本作品は、家庭との連携・協力と本人の素敵な感性、伝えようという素直な思いから生まれた作品です。